

みなさんの家庭でできる備え

非常持出袋の中身を確認しておく

地震はいつ起こるか分かりません。普段の余裕のあるときに食糧や水、衣類などのご家庭での備蓄品について消費期限が過ぎていないか確認しておきましょう。また、村でも災害時の備蓄を進めておりますが、ご家庭によって常備薬や紙おむつなど普段の生活での必需品は様々ですので、それぞれのご家庭で実際に避難することを想定し内容の更新をしていきましょう。

避難所・避難経路の安全を確認しておく

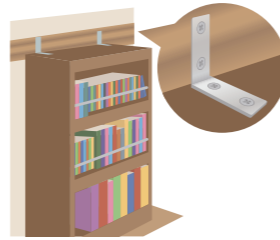
巨大地震の直後は余震が続くことが多く、どの道を通って避難所まで避難するのが重要です。台風などの風水害とはまた違った被害、例えば転石や倒木、落下物など、**家の周囲や避難路にどのような危険があるのかについて普段から考えておく**ようにしましょう。

家族との連絡手段を決めておく

大規模な災害時には電話の回線が込み合い、かからない、あるいはかかりにくい状況となります。ご家庭で伝言板を作って、携帯電話会社等が提供する災害時伝言ダイヤル(伝言掲示板など)を活用するなど、**あらかじめ家族との連絡手段を決めておく**ようにしましょう。

家具や家電製品などは固定しておく

阪神大震災では就寝中に家具の下敷きとなりお亡くなりになられた方もおられます。ご家庭の家具や家電製品、とくに寝室やリビングなどよく過ごす場所については、**家具等を固定具等で固定する**ようにしましょう。



村内避難所

所在地	No.	避難所名称	震災	洪水		土砂
				計画	最大	
小川	1	東吉野村住民ホール	○	○	×	○
小川	2	小川生活改善センター	×	○	○	○
小川	3	宝泉寺	×	○	○	○
小川	4	東吉野小学校体育館	○	○	○	×
小川	5	東吉野村中央公民館	×	○	○	○
小	6	東吉野こども園	○	○	○	△
小	7	東吉野村奉仕活動リハビリセンター	×	○	○	×
小	8	小公民館	×	○	○	△
小	9	天照寺	×	○	○	×
木津川	10	木津川交流センター	○	○	×	○
木津川	11	円覚寺	×	○	×	×
小栗栖	12	東吉野中学校体育館	○	○	×	○
小栗栖	13	小栗栖交流センター	○	○	×	○
小栗栖	14	東禅寺	×	○	○	○
中黒	15	中黒公民館	×	○	×	○
中黒	16	興禅寺	×	○	○	×
中黒	17	東吉野村運動公園体育館	○	○	△	×
鷺家	18	鷺家集会センター(グラウンド)	×	○	○	△
鷺家	19	龍泉寺	×	○	○	○
鷺家	20	鷺家八幡神社社務所	×	○	○	×
三尾	21	旧四郷小学校体育館	×	○	○	○
三尾	22	藏心寺	×	○	○	×
三尾	23	三尾区民センター	×	○	○	×

所在地	No.	避難所名称	震災	洪水		土砂
				計画	最大	
狭戸	24	厳泉寺	×	○	○	×
狭戸	25	狭戸区集会所	×	○	○	×
大豆生	26	大豆生公民館	○	○	○	×
大豆生	27	汲泉寺	×	○	○	×
大豆生	28	ふるさと村	×	○	○	×
大又	29	禅昌寺	×	○	○	×
大又	30	大又生活改善センター	×	○	○	○
麦谷	31	龍淵寺	×	○	○	×
麦谷	32	麦谷公民館	×	○	○	×
萩原	33	明光寺	×	○	○	×
伊豆尾	34	伊豆尾なごみホール	○	○	○	×
伊豆尾	35	光蔵寺	×	○	○	○
日裏	36	日裏区集会所	×	○	○	△
木津	37	旧高見小学校体育館	○	○	×	○
木津	38	木津ふれあいセンター	○	○	○	×
杉谷	39	杉谷交流センター	○	○	○	○
杉谷	40	天理教勢和分教会	×	○	○	×
平野	41	平野公民館	×	○	○	○
平野	42	福円寺	×	○	○	×
瀧野	43	白馬寺	×	○	○	×
谷尻	44	谷尻公民館	×	○	○	○
谷尻	45	宝城院	×	○	○	×

避難所の適用性基準

震災・・・○は耐震性を有する施設(耐震改修済みの施設を含む)

洪水・・・○は河川のはんらん区域外に位置する施設。「計画」は「計画規模(10年～100年に1回程度の降雨規模)」、「最大」は「想定最大規模(想定し得る最大規模の降雨)」を指す。

△は河川のはんらん区域内にあるが、地区における主要な施設(避難所)

土砂・・・○は土砂災害のイエローゾーン、レッドゾーン等の区域外に位置する施設

△は土砂災害のイエローゾーンの区域内であるが、各地区における主要な施設(避難所)

備蓄品について

東吉野村では、各地区の避難所となっている**公民館等**に備蓄しており、その内容は次のとおりです。



防災情報マップ 萩原

気象予警報・警戒レベル・特別警報について

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	避難情報等
警戒レベル5	災害発生を確認	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保 ※1 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令

～警戒レベル4までに必ず避難!～

警戒レベル4 全員避難	災害のおそれが高い	危険な場所から全員避難	避難指示 ※2
----------------	-----------	-------------	----------------

警戒レベル3 高齢者等は避難	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 他の住民は準備	高齢者等避難 ※3
-------------------	----------	---------------------------	------------------

警戒レベル2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)
--------	--------	------------	--------------------------------

警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁が発表)
--------	--------------	-------------	---------------------------

●各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5
警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。**警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません!**

警戒レベル4
避難勧告は廃止されます。これからは、**警戒レベル4避難指示**で危険な場所から全員避難しましょう。

警戒レベル3
避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、**警戒レベル3高齢者等避難**で危険な場所から避難しましょう。

特別警報

気象庁では、激しい大雨や地震などにより重大な災害の起こるおそれがあるときに従来の警報に加えて特別警報を発表します。特別警報が発表された場合、数十年に一度しかないような非常に危険な状況にありますので、屋外の状況や避難指示等に留意し、ただちに命を守る行動をとってください。



詳しくは気象庁HPで <http://www.jma.go.jp>

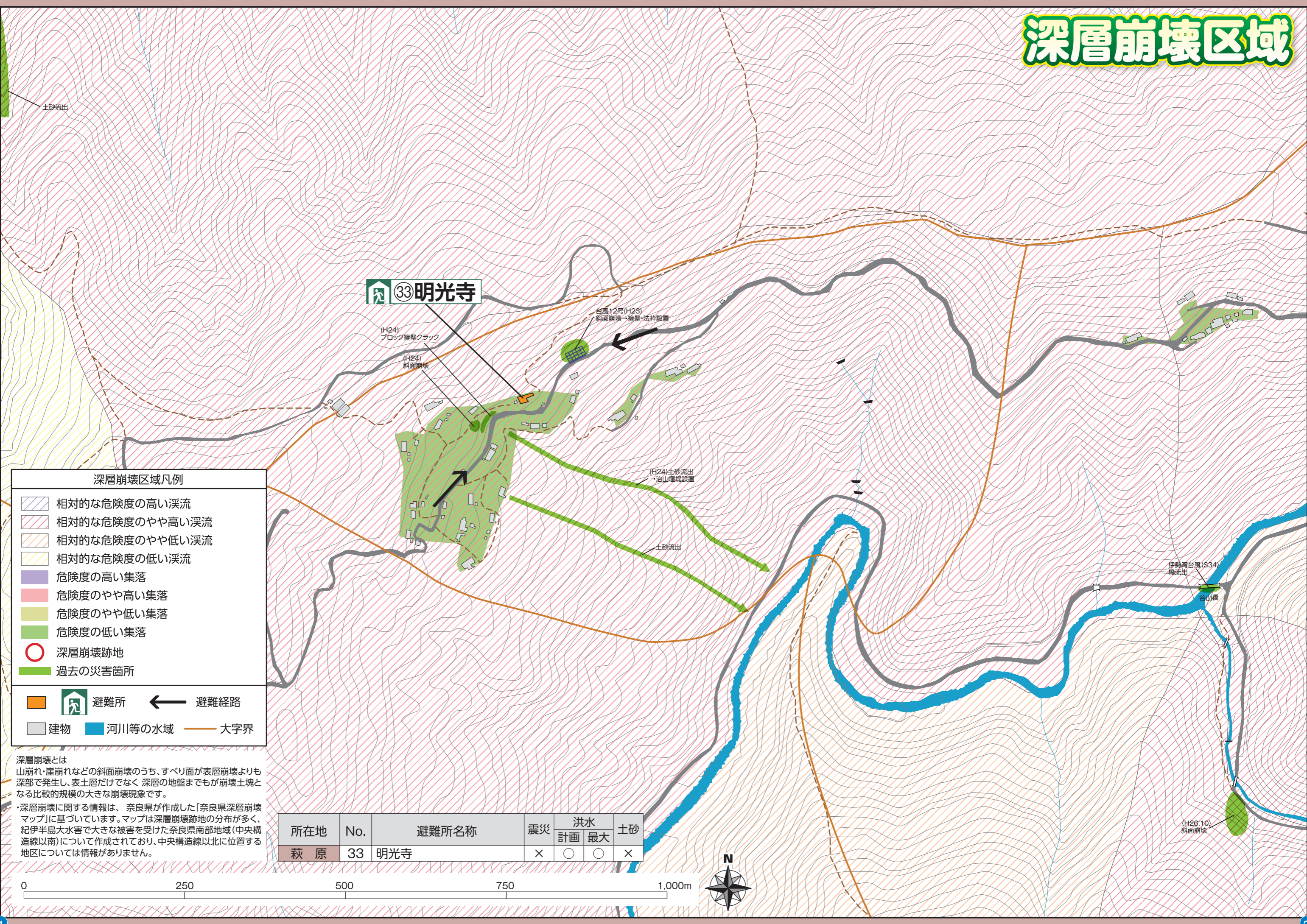
情報の取得について

避難情報は、防災行政情報放送設備により、村民のみなさまにお伝えします。

みなさまがご家庭でお使いいただいている告知端末は、**少なくとも1年に1度は電池を入れ替える**など適切な維持管理をお願いします。なお、故障等が発生した場合は、東吉野村役場総務企画課までお問い合わせください。



深層崩壊区域



深層崩壊区域凡例

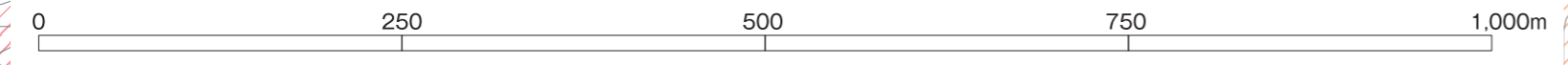
- 相対的な危険度の高い溪流
- 相対的な危険度のやや高い溪流
- 相対的な危険度のやや低い溪流
- 相対的な危険度の低い溪流
- 危険度の高い集落
- 危険度のやや高い集落
- 危険度のやや低い集落
- 危険度の低い集落
- 深層崩壊跡地
- 過去の災害箇所

避難所 避難経路
 建物 河川等の水域 大字界

深層崩壊とは山崩れ・崖崩れなどの斜面崩壊のうち、すべり面が表層崩壊よりも深部で発生し、表土層だけでなく深層の地盤までもが崩壊土塊となる比較的規模の大きな崩壊現象です。

・深層崩壊に関する情報は、奈良県が作成した「奈良県深層崩壊マップ」に基づいています。マップは深層崩壊跡地の分布が多く、紀伊半島大水害で大きな被害を受けた奈良県南部地域(中央構造線以南)について作成されており、中央構造線以北に位置する地区については情報がありません。

所在地	No.	避難所名称	震災	洪水		土砂
				計画	最大	
萩原	33	明光寺	×	○	○	×



地震への備え

地震時の心得10ヶ条

1 まずは身の安全を!

ケガをしたら火の始末や避難が遅れてしまいます。家具の転倒、落下物には十分な対策を。



2 すばやく火の始末

揺れが収まったらすばやく行動。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。



3 戸を開けて出口の確保

揺れでドアが開かなくなることも。戸を開けて避難口の確保も。



4 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。



5 あわてて飛び出さない

飛び出しはケガのもと。冷静な判断を。



6 狭い路地やブロック塀には要注意

ブロック塀や自動販売機は転倒の恐れがある。



7 協力し合って応急救援

地域ぐるみで協力し合って応急救援の体制を構築する。



8 山崩れ、がけ崩れに注意

居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心がけを。



9 避難は徒歩で

マイカーでの避難は危険なうえ緊急車両の障害になりうる。ルールを守る心のゆとりをもつ。



10 正しい情報を聞く

事実はひとつ。間違った情報にまどわされず的確な行動をする。



避難時の注意事項

- むやみに動かない
- 余震に注意する
- 垂れ下がった電線に触らない
- 落下物に注意する
- エレベータは使用しない



風水害への備え

土砂災害の種類と主な前兆現象

がけ崩れ

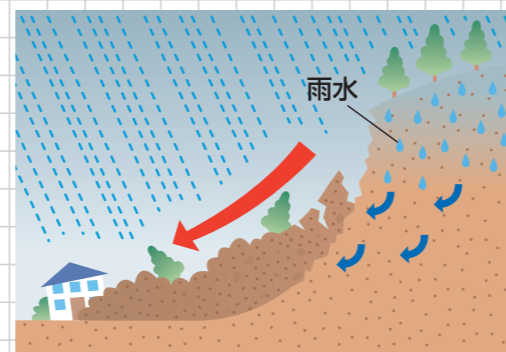
特徴

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象。

崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。

主な前兆現象

- がけにひび割れができる
- 小石がバラバラと落ちてくる
- がけから水が湧き出る
- 湧き水が止まる・濁る
- 地鳴りがする



土石流

特徴

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。

時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。

主な前兆現象

- 山鳴りがする
- 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- 腐った土の匂いがする
- 降雨が続くのに川の水位が下がる
- 立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる



地すべり

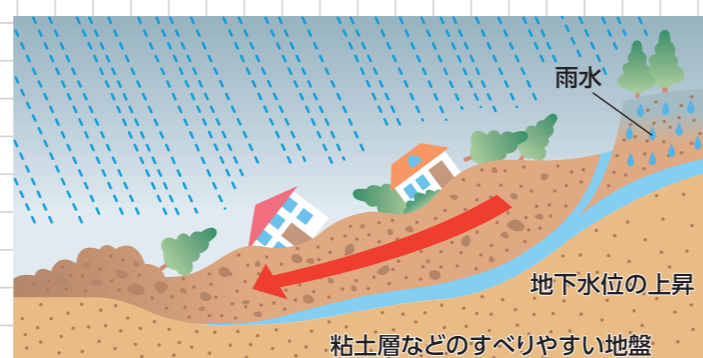
特徴

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

土塊の移動量が大きいため、甚大な被害が発生。

主な前兆現象

- 地面のひび割れ・陥没
- がけや斜面から水が湧き出す
- 井戸や沢の水が濁る
- 地鳴り・山鳴りがする
- 樹木が傾く
- 亀裂や段差が発生



土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害防止法に基づき「土砂災害が発生した時に住民などの生命または身体に危害が生じるおそれのある地域」を指定したものです。

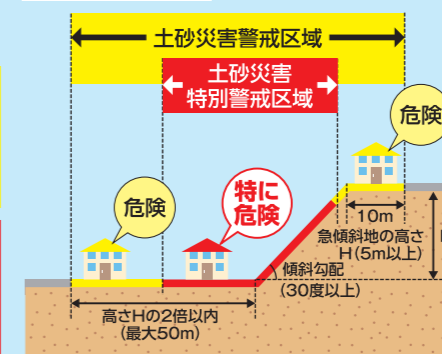
土砂災害警戒区域 (通称: イエローゾーン)

土砂災害が発生したときに被害等を受けるおそれのある地域です。土砂災害の危険性の周知や避難体制の整備が図られます。

土砂災害特別警戒区域 (通称: レッドゾーン)

土砂災害警戒区域内で被害等を受けるおそれが特に高い地域です。区域内での開発行為の制限や新築・増改築の際の構造規制等が行われます。

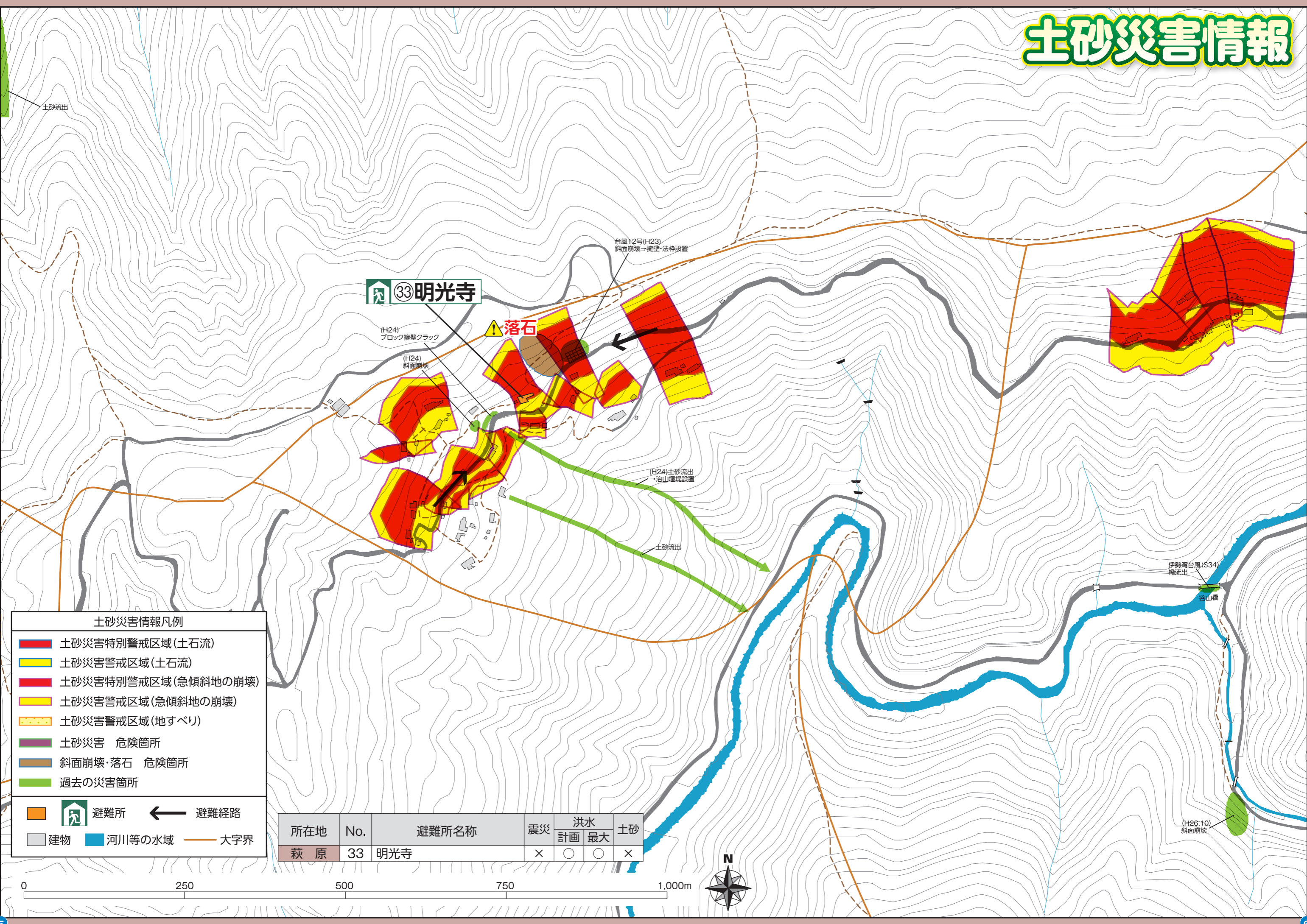
がけ崩れの場合



土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに、市町村長が避難指示などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。これは、警戒レベル4相当情報であり、市町村が警戒レベル4を発令する目安となる情報で、災害の切迫度が高まっていることを示しています。雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう。

土砂災害情報

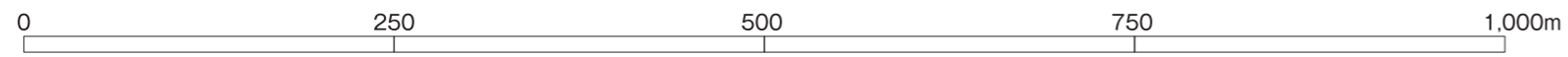


土砂災害情報凡例

- 土砂災害特別警戒区域(土石流)
- 土砂災害警戒区域(土石流)
- 土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)
- 土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)
- 土砂災害警戒区域(地すべり)
- 土砂災害 危険箇所
- 斜面崩壊・落石 危険箇所
- 過去の災害箇所

避難所 ← 避難経路
 建物 河川等の水域 大字界

所在地	No.	避難所名称	震災	洪水		土砂
				計画	最大	
萩原	33	明光寺	×	○	○	×



風水害への備え

台風への備えと注意点



台風が接近しているとき

- 防災行政情報放送設備の放送に注意しましょう(告知端末の乾電池の確認を忘れずに)
- テレビやラジオで最新の気象情報を入手しましょう
- 停電に備えましょう(懐中電灯や携帯ラジオ、予備の乾電池などをあらかじめ準備しましょう)
- 家の周りや水路などに置いている物などを片付けましょう(強風で物が飛ばされる、水路が詰まるなどの災害を未然に防ぎましょう)

台風が来たとき

- 早めの自主避難を心がけましょう(雨風が強くなってからの避難は危険なため早めに行動を)
- 役場からの避難情報に注意しましょう
- 最新の気象情報に注意しましょう

浸水被害から身を守る

<p>3m以上の浸水 ●2階以上が浸水 ●水流が強い場合は、木造住宅が倒壊する危険がある</p>	安全な場所に避難する 時間があり、安全な避難経路が確保されている場合	浸水しない場所 ●安全な場所へ移動する ●水平避難	
<p>0.5~3m未満の浸水 ●床上浸水、1階全体が浸水 ●水流が強い場合は、木造住宅が倒壊する危険がある</p>		2階以上の建物 ●自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる ●垂直避難	
<p>0.5m未満の浸水 ●床下浸水 ●大人のひざ程度 ●浸水の深さがひざ上になると歩行は危険</p>		自宅にとどまる ●むやみな移動はかえって危険 ●屋内待機	

大雨・洪水、土砂災害避難時の心得

避難時の服装

履きなれた運動靴
※長靴は水が入るので履かない!

防寒具(上着) レインコート

歩行可能な水深はひざ下まで(流れがある場合は足首まで)。階段やマンホールなどに注意して、杖などを使って足元を確認しながら避難する。

がけなどの危険箇所には近寄らない。事前に危険箇所から離れた避難経路を確認する。

増水した河川には近づかない。あらかじめ河川から離れた避難経路を確認する。

台風が来る前に対策する

台風が近づいているときは自宅の周りを再度チェックする

家の外の安全対策

被害を軽減するために、日ごろから家屋などの周りを点検し、万全の対策を立てておきましょう。

庭木

- 枝が飛ばされないよう日頃から剪定しておく
- 倒木とならないように日頃から木の状況を確認する(根腐れ・枯れ木等)

屋根

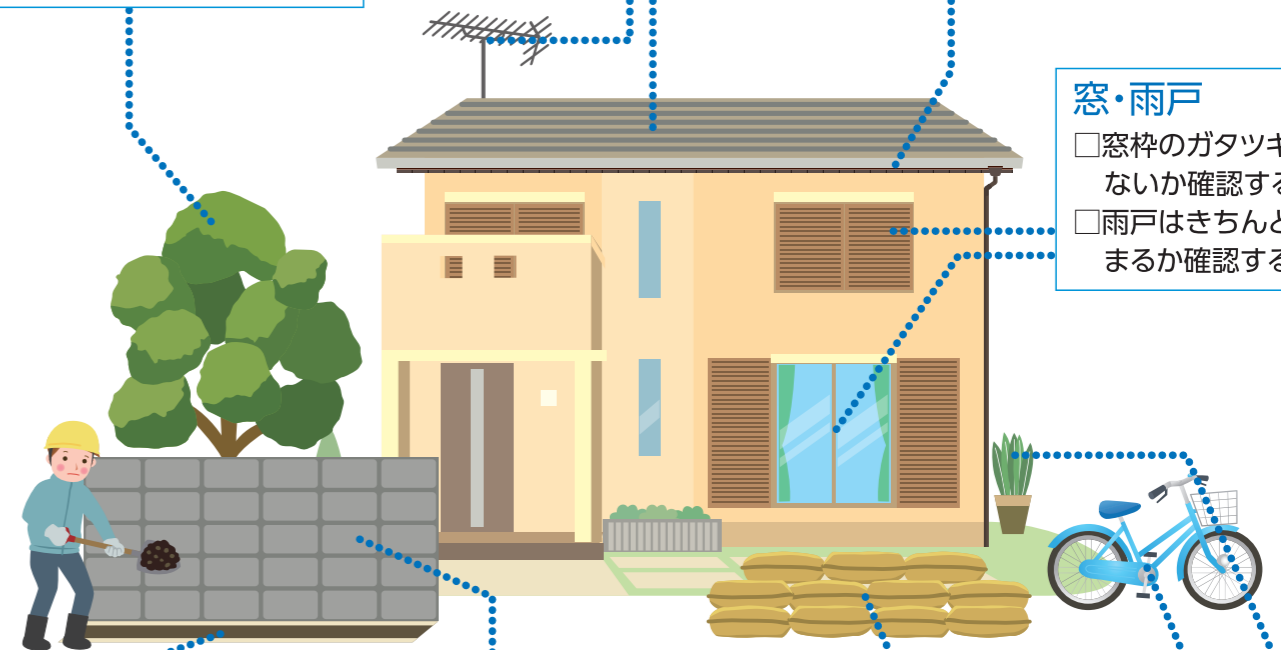
- アンテナを補強する
- 屋根材が風で飛ばないように点検する(作業は雨風の強くない時に行う)

雨どい

- 継ぎ目のはがれ、塗装のはがれなどを確認する
- 落ち葉や土砂が詰まっていたら取り除く

窓・雨戸

- 窓枠のガタツキがないか確認する
- 雨戸はきちんと閉まるか確認する



排水溝・側溝

- 排水溝・側溝を清掃し、水の流れを悪くする落ち葉や土砂などを取り除く

ブロック塀

- ひび割れや傾きがある場合は修理する
- 控え壁、鉄筋がないブロック壁は補強する

土のう

- 玄関が低い場合は、土のうを用意しておく

家のまわり

- 風で飛ばされそうなものを片付ける(植木鉢・自転車・物干し竿等)

集合住宅の安全対策

通路・階段

- 安全に避難できるよう通行の妨げになるようなものがないか確認する

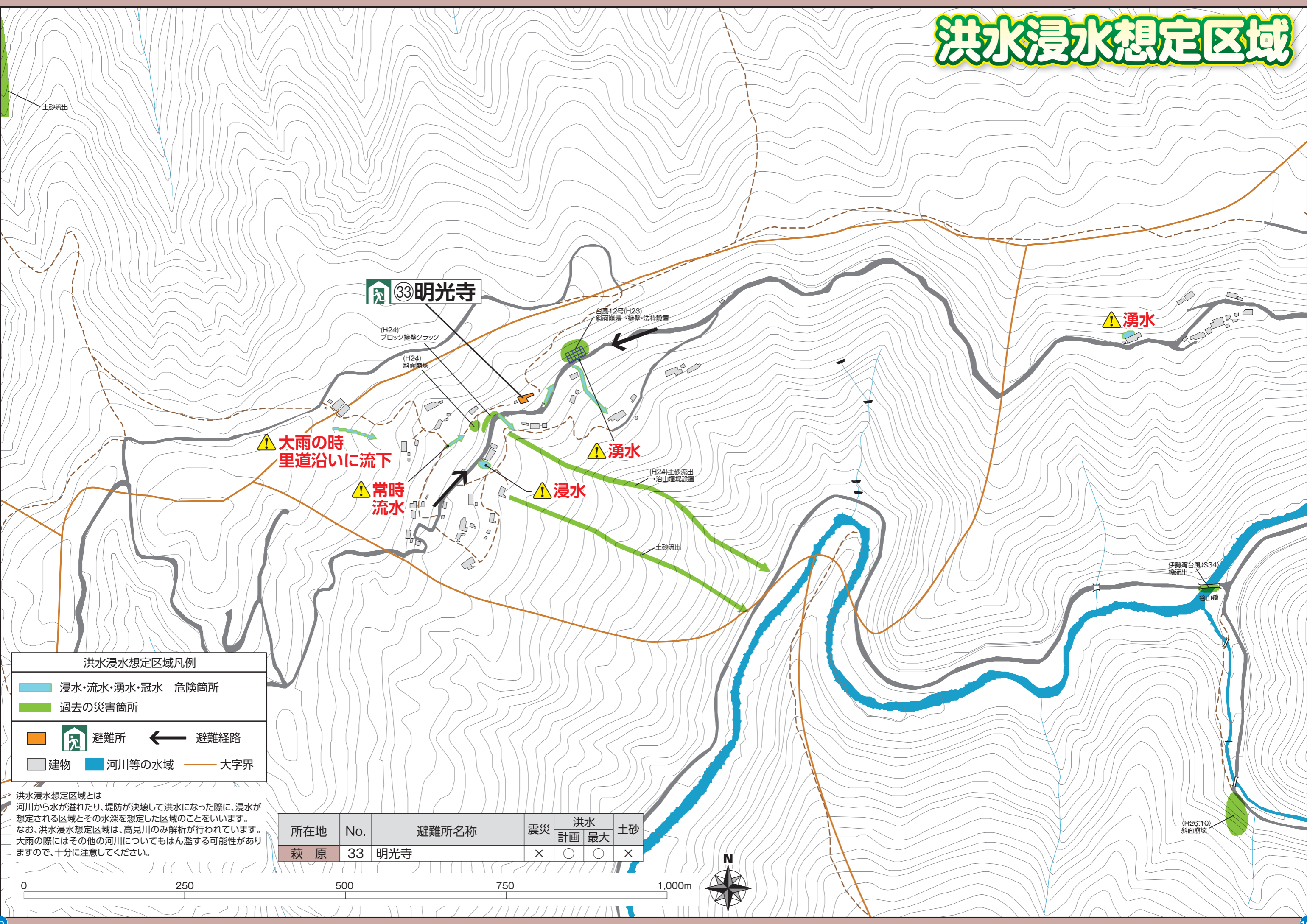
ベランダ

- 避難はしごの使用法や、使用を妨げるものがないか確認する

防災用具・防火設備

- 消火器や住宅用火災警報器、受信機(防災監視盤)などの場所を確認する

洪水浸水想定区域



洪水浸水想定区域凡例

- 浸水・流水・湧水・冠水 危険箇所
- 過去の災害箇所
- 避難所 ← 避難経路
- 建物 河川等の水域 大字界

洪水浸水想定区域とは、河川から水が溢れたり、堤防が決壊して洪水になった際に、浸水が想定される区域とその水深を想定した区域のことをいいます。なお、洪水浸水想定区域は、高見川のみ解析が行われています。大雨の際にはその他の河川についてもはん濫する可能性がありますので、十分に注意してください。

所在地	No.	避難所名称	震災	洪水		土砂
				計画	最大	
萩原	33	明光寺	×	○	○	×

